

ケンタ通信

88号



①巨大ポスター完成 @芥川商店街入り口

幅5メートル超 国内最大級
最大の「都構想」アピールを！

幅5メートルを超える特大ポスターをJR高槻駅北口に面する芥川商店街入り口に掲示しています=写真上。松浪ケンタが支持者の方のご厚意を得て企画したもので、国内最大級です。

②民意が動かす都構想

住民投票の11月1日実施へ

「維新が府議会で過半数を獲れば、都構想が動く！」。先の大阪府議会議員選挙で、何百回も繰り返した公約が実現しました。維新が単独で過半数を大きく上回り（占有議席58%、右図参照）、都構

<裏面に続く>

大阪府議会・市議会の新構成
※カッコ内は告示前勢力。府議会の自民会派は無所属
1人、市議会とは同2人を含む。欠員含まず



▲ 毎日新聞より

各党の立場
大阪都構想に対する

	都構想への賛否	主な意見
大阪維新の会	◎	大阪の成長を加速するため、都構想は不可欠
公明	○	特別区設置後も現在の住民サービスの内容や水準を維持
自民	△	是々々々の立場で議論する。行政コストが肥大化する
共産	×	行政コストの増大で現在の住民サービスが低下する

想の制度案をつくる法定協議会でも過半数が逆転。昨年末には、制度案の大枠が、維新・公明の賛成多数で議決され、今年11月1日に住民投票が行われる見通しとなりました。

公明⇒都構想 賛成に 維新⇒公明4条件に合意

これまでの経緯では、6月に再開された法定協議会で、公明の西崎照明・大阪市議団幹事長が「(統一地方選挙で)事前の予想をはるかに上回る民意が示された。特別区制度に賛成の立場で制度案をつくる」と、大阪都構想に賛成の立場を明言しました。

9月には、公明が維新と事前協議を行ってまとめた意見を提出。翌日の読売新聞では「都構想 維新公明が主導」と報道されるまでになりました。

11月には、公明が示した4条件に維新が合意。その内容は、住民サービスの維持▽移行コストを最小限に抑える▽現24区役所の窓口機能の維持▽全4特別区に児童相談所を設置する、というもの。これを受け、松井一郎大阪市長は、2025年1月の都構想移行を目指し、「(都構想を実現した)『ワン大阪』で万博に臨む」と表明しました。

またこの間、ケンタは、副首都推進局と意見交換会を開催し、都構想を分かりやすく府民に伝えるために研究活動を行っています=写真下。



「大阪都構想は、東京の仕組みを改良して大阪に導入すること。さらに大阪を副首都にする前提として必要だ」。副首都推進局と議論する松浪ケンタ。

③「副首都圏」ビジョンの策定を!

関西広域連合議会で提案

関西広域連合議会は、関西の府県議会、政令指定都市議会の代表で構成され、大阪府議会からはケンタを含めて5人が選出されています。ケンタは大阪副首都化を念頭に「関西を副首都圏と位置付けてビジョンを策定すべき」と提案しました。

[松浪ケンタ プロフィール]

大阪府議会議員。関西広域連合議会議員。昭和46年生まれ、清風高校、早稲田大商学部卒。産経新聞記者を経て衆議院議員を5期務める。道州制をライフワークとし、大阪都構想の根拠法である大都市法の与野党協議責任者を務めた。これまでに衆議院決算行政監視委員会委員長、内閣府大臣政務官(道州制、地方分権など担当)、厚生労働大臣政務官、日本維新の会国会議員団幹事長など歴任。